

JST技術移転事業50周年 未来から今と近未来を考えてみる

三木 俊克
山口大学

社会と大学：産学連携・技術移転活動とJST

【最近の20年を俯瞰してみると】

◆社会と大学の新時代①：産学連携の黎明期から拡大期（平成元年～）

➤ 大学における産学連携担当部署の連続的な整備と予算措置

共同研究センター ベンチャーラボ、TLO、ビジネスインキュベーション施設、知的財産本部、等

◆社会と大学の新時代②：国立大学の法人化を経て（平成16年～）

➤ 大学の自立的運営、民間型のマネジメント手法導入

知的財産の機関帰属、産学連携に係る各種ポリシーの制定、大学における民間人材の登用、マネジメント手法の導入、等

◆社会と大学をつなぐJST：研究開発支援と技術移転推進

➤ 経済のグローバル化とオープン・イノベーション

プロダクト・ライフサイクルの短寿命化、企業の研究開発における外部リソース活用の拡大、労働市場も含めた規制緩和、企業における人材育成投資の減少傾向、等

➤ 研究開発促進、知的財産の保護と活用、イノベーション創出戦略

知的財産戦略、イノベーション25（平成19年6月1日閣議決定）、技術革新の戦略ロードマップ、社会制度の改革と人材育成、国際化推進、大学改革、等

イノベーションシーズは様々なチャンネルから

(1) 研究者の蓄積された情報 + 不安、欲求、矛盾、衝突

⇒ 研究者の自発性に基づく研究

⇒ 新たな着想やアイデア

⇒ やってみる

⇒ 新発見 ⇄ イノベーション・シーズ

(2) 社会のニーズ + 研究開発戦略とアライアンス

⇒ 戦略的なプランのもとに実施する産学共同研究

⇒ プランで予期された結果 ⇒ イノベーション創出へ

+ 意外な結果=新発見 ⇄ イノベーション・シーズ

キーワード1：“Discovery & Innovation”

キーワード2：“Strategic R&D & Innovation”

社会と大学とJST： 2025年から近未来を考える

【未来から今と近未来を考える】

◆ 2025年 から 近未来 を想定

- 過去と現状からの外挿でなく、将来像から今と近未来を考えてみる
- 50年後は誰も想定が困難、2025年=「イノベーション25」が描く我国と世界

◆ イノベーション創出に資するオープンリソースとしての大学等

- イノベーションと大学等における課題解決型研究（产学共同研究も含む）
- イノベーションと大学等における基礎研究（民間がリスクテイク出来ない）
- イノベーションと大学等における人材育成（产学協働育成も含む）

◆ ますます期待が高まる、JSTによるイノベーション推進投資

- R&D支援の加速： ピークを高く、裾野を広く

【例】 イノベーション・シーズへの英敏なアンテナ、発掘と育成、ライフサイエンス(iPSと再生医療、その他)、ナノテク・材料(鉄ニクタイン系超伝導材、その他)

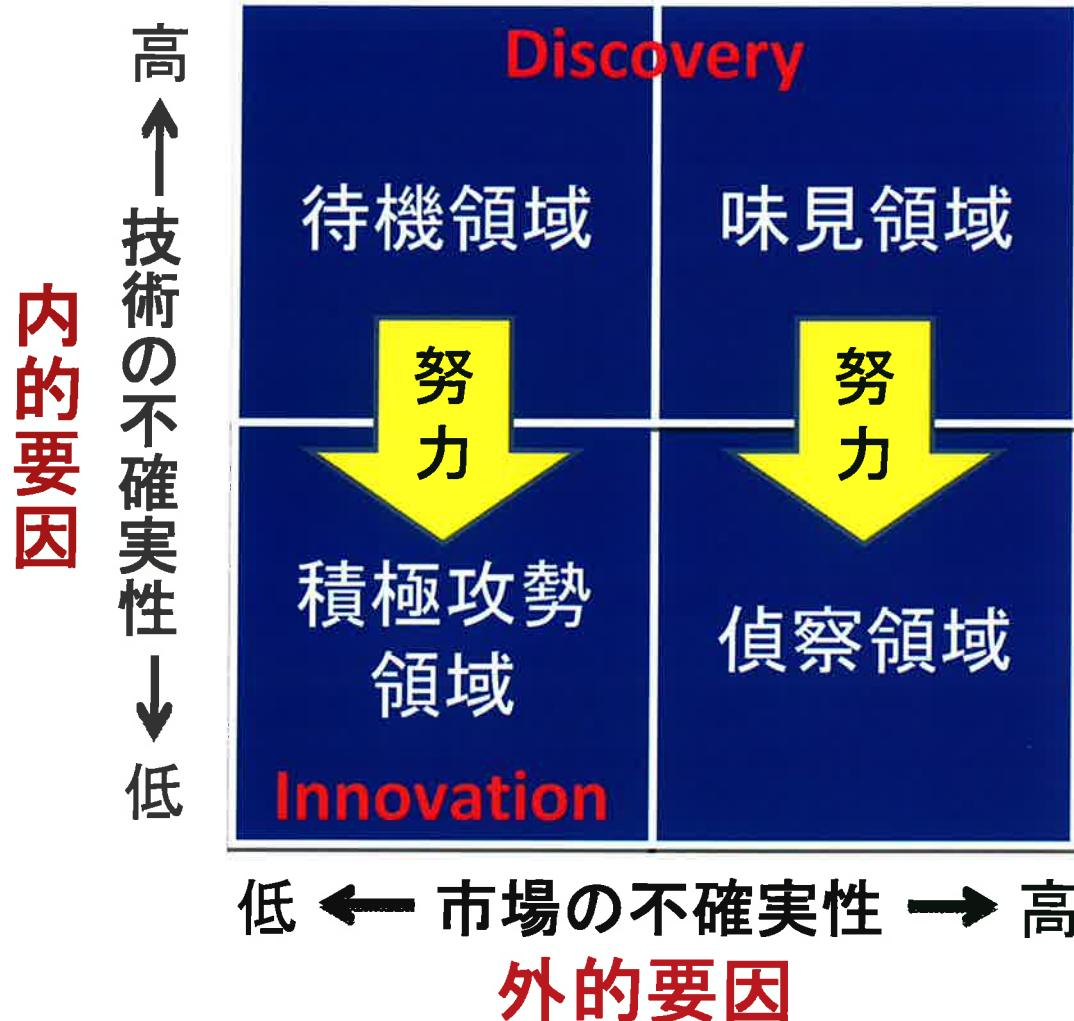
- R&D支援の加速： プロジェクトのシナリオ・ライティングとプロマネ

【例】 イノベーションの出口までのシナリオライティング、プロマネ等支援チーム

- 知財の保護・活用支援、人材育成支援の強化

Discovery から Innovation へ

発芽には、種の良し悪し、努力、時間、環境、支援、運、なども



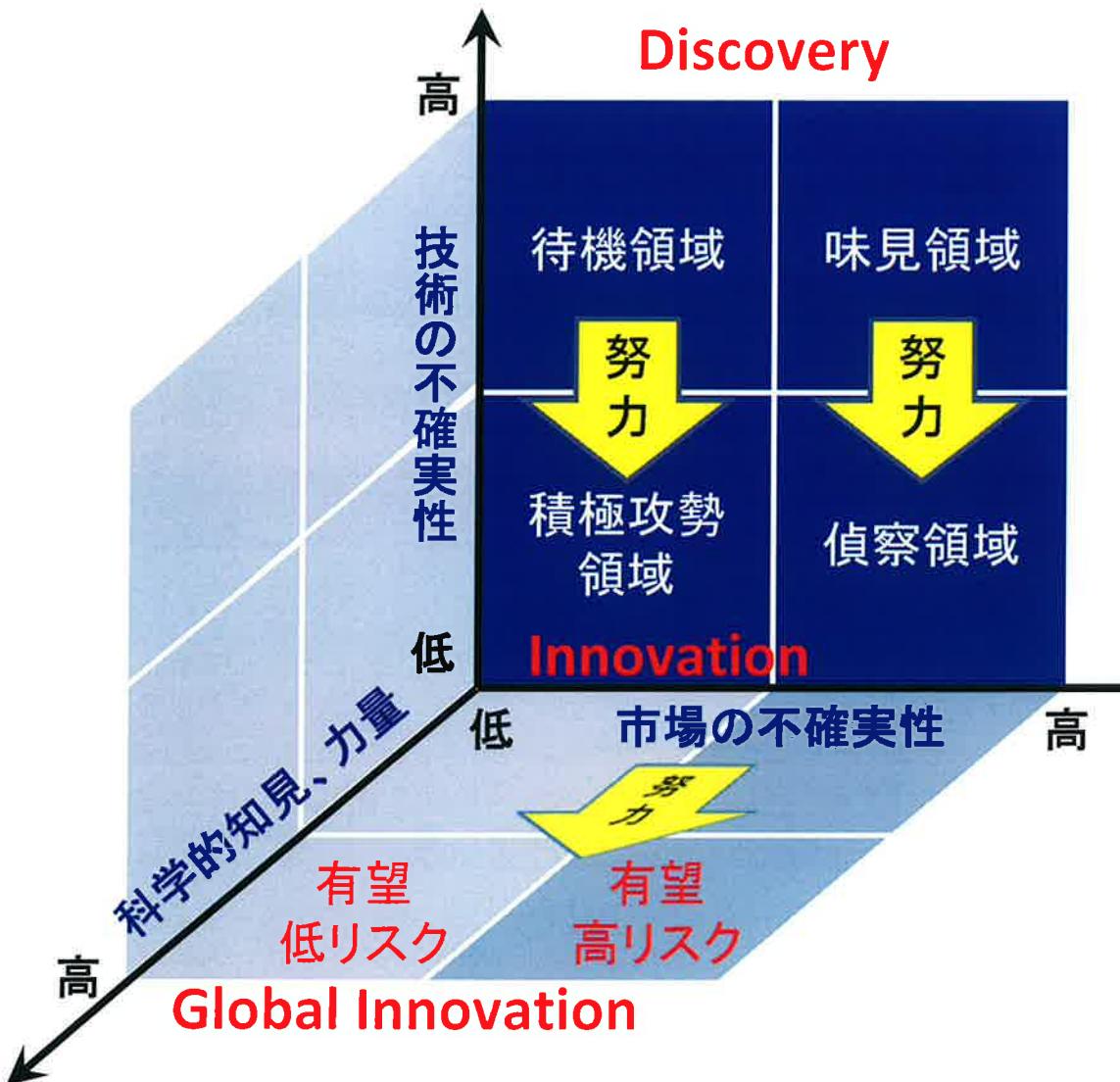
■ 技術の不確実性低減

- 課題を明確にし、(努力)
× (時間)で低減する
- 科学的方法論で効率的に低減する

■ 市場の不確実性低減

- 情報収集で可視化を進める
- 市場をセグメント化して可視化を進める

Discovery から Innovation へ



■学に求められること

- 展開力のあるシーズ(高リスクでも)
⇒ Discovery & Innovation
- 技術の不確実性低減(プロマネで)
- 高い科学的知見や力量(学の本務)
- 人材育成を重視(学の本務)

■産(イノベーションの主役)に求められること

- 技術課題をイノベーションの観点で
- Lab技術と産業技術のギャップ克服
- 产学で必要な資材・人材の共有化

■つなぐ立場の役目

- プロジェクトのシナリオ・ライティング
人材、ノウハウ蓄積、プロマネ
- 技術移転支援(R&D、IP移転)
- 國際的なイノベーション支援チーム